

Daily Chronicle

連載 9803回

流さぬゆく日々

不思議

ベニクラゲモドキ

老人の運転は是か非か ④



五木寛之

「うですね」と、訪ねてきた編集者がいう。

(昨日のつぎ)

先 日、14歳の少年が車を盗んで暴走し、事故をおこしたニュースを読んだ。パトカーに追いかけて、逃走したあげくの事故だったらしい。

高齢者と、少年の交通事故は、どこか共通のものがあるような気がしてならない。「タクシードライバーには、年齢制限がないぞ

「でも、若い人より安全運転だったんじゃないの」

「それはそうですが」「ぼくの経験からすると、年配のドライバーのほうが、慎重な運転をするように思えるけどなあ」



PHOTO 石山 貴美子

「でも、髪なんか真白で

「ここへくるのに乗ったタクシードライバーが、後期高齢者みたいな感じなので、ヒヤヒヤしました」

「ぼくが先日、乗った車のドライバーは、まさにレーサー志望の若者みたいな運転ぶりだね。凄く上手なんだけど、スリル満点だったなあ」

「さて、どちらが安全な

「この頃つづく」

どの「十文字クラゲ目」もう止まらない。深海を漂う深紅の「リ」

イクメン証券

最近サラリーマン小説が少ない。恋と生き甲斐を探しをモチーフにして働く女子を主人公にした小説はあっても、普通のサラリーマンを主人公にした小説は少ない。と嘆いている読者がいたら、本書をお薦めしたい。

主人公は木下勇介。証券会社の営業マンだ。妻が第2子出産のため入院中で、彼はその間、長男の面倒を見なければならぬ。仕

北上次郎のこれが面

（平凡社 6800円）

セブン・デイズ

セブン・デイズ

町田 哲也著